

31H 野田 早希      32H 石島 凜々子      32H 山口 小春  
 34H 野中 虎南      34H 喜多西 愛子      36H 北野 尊

■課題

里山里海がうまく活用されていない

■解決策

里山を保全するための人材と財源を確保する  
 里山里海の魅力を発信、里山資源の利用を進める

■現状（課題の背景）

里山

薪炭などの里山から採れる資源の利用が減る  
 人口減少、高齢化が進行する



里山に人の手が入らなくなる



植生遷移が起こり、里山が荒廃する。

※人口減少などによる財源の不足

影響

里海

・山の表土が流出し、沿岸部が土砂で埋まる  
 ・里山からの養分が供給されなくなる

里山の荒廃とともに里海も荒廃する

■具体的内容

A) 里山資源を活用した観光施設をつくる

【目的】

- ・里山の保全の際に発生する木材の活用
- ・雇用を創出し、職業としての里山保全の実現
- ・体験型プログラムなどでの啓発活動

【具体的手段】

- ・環境学習センターの設営（建材として間伐材を使用）
- ・里山里海を身近に感じられる体験型プログラムの実施
- ・バイオマス資源の活用

B) プロモーションの強化

【目的】

- ・能登のPR
- ・情報提供
- ・能登の特色の周知

【具体的手段】

- ・アンテナショップ「いしかわ百万石物語・江戸本店」の
- ・情報発信機能を強化

出典) <https://100mangokushop.jp/>

図1 木質バイオマスの活用モデル



出典) <http://www.n-forest.jp/power-generation/>

■効果

- A) ・能登の経済の活性化→能登の里山里海管理の財源へ
- B) ・人を呼び込む→知名度を上げる、人手不足の解消、能登の経済の活発化→能登の過疎化を防ぐ
- ・体験させる→能登の豊かな自然に触れる機会を作る
- ・バイオマス燃料の利用→能登里山の資源の有効活用と間伐の効果による里山のさらなる成長